

令和7年度 協働のまちづくりチャレンジ事業申請書

※提出された申請書の内容は、個人情報を除いて公開する場合がありますので、ご了承ください。

※太枠の中をご記入ください。

申請部門	スタート部門
------	--------

※プルダウンから選んでください

【1】事前相談

(1) 市民活動サポートセンターコーディネーターへの事前相談 ※スタート部門は必須、一般・団体連携部門は任意です

コーディネーター名	小幡美奈子
事前相談日	2月27日、3月27日

※複数回相談した場合、全てご記入ください

(2) 協働を希望する課への事前相談 ※スタート部門は任意、一般・団体連携部門は必須です

協働希望課名	
事前相談日	

※複数回相談した場合、全てご記入ください

【2】応募要件

該当する部門の応募要件の太枠内に、○を記載してください。（プルダウンになっています）

団体要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	5名以上で構成し、主に金沢市内で活動し、今後も活動を予定している団体である。	○
スタート部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去に採択された団体ではない。	○
スタート部門	法人格を取得しておらず、かつ設立から3年以内の団体である。	○
一般部門、団体連携部門	運営に関する規約等があり、1年以上の活動実績を持っている。	
一般部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去3回以上採択された団体ではない。	
団体連携部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去2回以上採択された団体ではない。	
団体連携部門	異なる複数の団体による連携提案である。（申請者・団体概要をそれぞれ記入要）	
事業要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	営利活動、宗教・政治活動を目的としない。	○
全部門共通	申請事業について、国、地方公共団体又はこれらに準ずる団体から助成を受けていない。	○
全部門共通	既に地域や団体が実施している事業そのものではない。	○
全部門共通	翌年3月31日までに事業を完了できる。	○
一般部門、団体連携部門	昨年度採用されていない事業である。（昨年度採択されている事業で、新しい工夫・発展性が見受けられる場合は除く）	○

設立年月日（西暦）	2024 年 10 月 1 日 （設立 1 年目）
団体概要	※記入しきれない場合、別に資料（団体パンフレット、HP等）を併せて提出してください。
（1）設立の目的	本団体は、能登半島地震で被災し販路や交流の場を失った能登の商店や生産者を支援することを目的に設立されました。代表の羽田功武が金沢駅前の居酒屋HALFTIMEで能登から避難された方々や支援者の声を直接聞き、「食べて、飲んで、買って応援できる場をつくりたい」との思いから、2023年11月に第1回出張輪島朝市×HALFTIMEを開催。以降も継続的にイベントを行い、学生・商店街・観光客・ボランティアが交わる場として発展。地域活性と復興支援を両立する活動へと広がっています。
※設立のきっかけや現在に至る経緯等	
（2）今後の目指していきたいこと	本団体は、能登と金沢が互いに支え合いながら地域の再生と発展を実現する持続可能な社会づくりを目指しています。能登半島地震により被災した商店や生産者に対し、金沢という都市の集客力を活かして販路や発信の場を提供し、経済的自立と復興の後押しを行います。私たちのミッションは、「食べる・飲む・買う」といった日常的な行動を通して、誰もが気軽に復興支援に関われる仕組みをつくることです。また、学生・地元住民・観光客・海外の方々が自然と集い、交流と学びが生まれる場づくりにも注力します。新たな観光ルートの創出や文化体験の提供を通じて、地域に新たな価値を生み出し、能登と金沢双方に利益と誇りをもたらす関係を築くことを目標としています。将来的には、地域に根ざした継続的な活動として定着させ、全国への波及効果も目指します。
※団体ビジョンや団体ミッション等、将来達成したい理想の状態や目標、団体が果たすべき存在意義等	
活動概要	以下に記入してください。
（1）主な活動履歴	2024年11月：「第1回 出張輪島朝市×HALFTIME」を金沢市別院通り商店街にて開催。能登の商店が来店し、500名以上を集客。能登復興支援と商店街活性化の同時実現を図る。 2024年12月：能登町ゆかりのキッチンカーを招致し、雪の中での開催にも関わらず300名を動員。 2025年2月：「第2回 出張輪島朝市×HALFTIME」開催。寒冷期でありながら600名超が来場。 2025年4月19日：「第3回 出張輪島朝市×HALFTIME」開催。過去最多となる16店舗が来店し、1,000名を超える動員を記録。観光客・地元住民・学生の交流が活発化。
（2）得意分野・活躍できること	地域資源を活用した企画力と、多様な人材や団体との柔軟な連携力に強みがあります。能登と金沢を結ぶ復興支援イベントの実施を通じて、飲食・観光・文化体験を融合した「参加型の支援」を実現。金沢美術工芸大学や金沢大学、商店街、NPOなどと協力し、学生や地域住民、観光客を巻き込んだ場づくりが得意です。また、インバウンド対応やSNS広報にも力を入れており、英語対応や若者世代への発信力にも優れ、広く共感を得られる仕掛けづくりに長けています。
※専門的知見、連携先、アピールポイント等	
HP,SNSのURL	Instagram@halftime.kanazawa

※団体連携部門の場合、当該「【3】申請者・団体概要」は連携先団体の分も必要であるため、シートをコピーし、シート名を「団体連携先」として記載願います。その場合、記載が必要な部分は「【3】申請者・団体概要」部分のみです。

【4】 企画内容

提案事業のテーマ	金沢市未来共創計画の5つの基本方針の中から、該当するテーマを選んでください。 【参考】未来共創計画の一覧はこちら↓ 未来共創計画 基本方針一覧
テーマ（プルダウン）	小テーマ（左セルでテーマを選ぶと、選択肢をプルダウンから選ぶことができます）
基本方針5_都市づくり	(1) 魅力あふれる中心市街地の活性化
※テーマが複数に渡る場合、副次的なテーマを以下から選択してください。	
基本方針1_魅力づくり	(4) 世界の人々が憧れ滞在したくなる都市ブランド力の向上
協働を希望する課名	
企画のタイトル	能登の復興を金沢の日常に。“食べて・買って・寄り道して”応援できる共感型まちづくり
事業の概要	※①～③の流れに沿って、具体的に記載してください。
①現状の地域課題 <small>（金沢市における困りごと、改善したい点、従来認識されていなかった課題 等）</small>	金沢市は歴史的な文化資源や観光資源に恵まれ、国内外から多くの観光客が訪れる都市です。しかしその一方で、観光客の動線が一部エリアに偏っており、金沢駅から近江町市場や兼六園への「定番ルート」に集中する傾向が見られます。その結果、別院通り商店街や横安江町商店街など、駅から近距離にありながら観光ルートから外れてしまった地域は、集客力やにぎわいの面で後れを取っているのが現状です。また、金沢市内には多くの素泊まり型ゲストハウスがありますが、日本の伝統的な朝食を提供する場所が少なく、特に海外観光客にとっては「本物の日本の朝ごはんを体験したい」というニーズに応えられていません。さらに、インバウンド対応においても、英語による案内や外国人観光客とのコミュニケーションを円滑に行える人材に限られており、多様な観光ニーズへの対応が追いついていない現状もあります。近年は、若者世代の地域離れや地元商店街の空洞化といった構造的な課題も深刻です。商店街における後継者不足、空き店舗の増加、地域住民と外部来訪者の接点の減少などが進み、地域の持続性に不安が生じています。また、災害時の避難者受け入れや、被災地支援を目的とした地域間連携の仕組みもまだ発展途上であり、能登半島地震により顕在化した“支援の受け皿”の不足も新たな課題として浮かび上がりました。こうした背景を踏まえ、金沢市には「地域資源を面的に活用し、観光の分散化を図る」「空き店舗や未活用スペースを活かしてにぎわいを創出する」「多様な人々が関われる地域コミュニティづくりを推進する」といった視点からの改善と新たな仕組みづくりが求められています。
②ねらい・コンセプト <small>（①で記載した課題解決のために、 ・アプローチする方向性 ・工夫する点 ・協働する意義 ・市民が共感できる点 等）</small>	課題解決に向けては、まず金沢駅周辺に点在する未活用の空間（もてなしドーム、此花町緑地、横安江町広場）を、能登の魅力発信や市民・観光客の交流拠点として活用し、新たなにぎわいを創出する方向性をとります。観光動線を再設計し、定番ルートから一步踏み出した“寄り道”を促すことで地域全体への回遊性を高めます。工夫としては、「食べて・飲んで・買って応援できる」仕掛けや、学生・観光客・地域住民が自然に関わる仕組みをつくることです。被災地支援、観光振興、空き店舗活用など複数の課題を横断的に扱うことで、NPO・大学・商店街・自治体との協働の意義も高まり、市民にとっても「地域に貢献できる」「応援が目に見える形になる」と共感を呼ぶ取り組みになります。

<p>③実施内容案</p> <p>年間事業スケジュール案について、必要があれば使用してください↓</p> <p>事業スケジュールひな形</p>	<p>実施予定時期：6月～第三土日</p> <p>対象者（ターゲット）：国内外観光客、地元の方、学生。イベント都度動員1,000人以上目標</p> <p>予定場所：金沢駅下もてなしドーム～別院通り～横安江町商店街</p> <p>実施内容：出張輪島朝市の商店を10店舗ほどメインにお呼びし、計30店舗の能登の方々を呼ぶ。また同時に石川県クラフトビール協会とも連携し、クラフトビール祭りも同時開催。金沢美術工芸大学生にはイベントのチラシ作成を依頼し、作品展示出来るスペースを雑貨店の文月にお借りする。キッチンカー協会とも連携し、通りに6台のキッチンカーを呼ぶ予定。（東本願寺参道前3台、マルエー彦三店駐車場3台場所了承済み）英語が得意な学生を募り海外観光客のアテンドや商店さんの負担の軽減をはかる。</p> <p>広報・周知の方法：Instagram、石川県観光連盟様協力のもと観光案内所へチラシ設置、金沢市内ホテルへのチラシ設置、協力店舗へのチラシ設置</p> <p>年間事業スケジュール案：6月～毎月第三土日</p> <p>他、特記事項：</p>
<p>事業効果</p>	<p>※金沢市における効果や、事業の対象者が具体的にどうなるか等、記載してください。</p>
<p>期待できる事業効果</p> <p>(広く市民が共感できるか、他団体や行政・企業とのつながり、協働の効果がみえるか 等)</p>	<p>本事業は、能登復興支援と金沢の地域活性化を同時に実現する取り組みであり、広く市民の共感を得られる内容です。「食べて・飲んで・買って応援する」という身近な行動が復興支援につながる仕組みは、老若男女問わず誰もが関わりやすく、地域一体となった取り組みとして広がりが期待されます。また、金沢大学・金沢美術工芸大学の学生、金沢駅もてなし隊、NPOクロスフィールド、観光連盟、地元商店街や企業といった多様な団体との協働体制により、事業効果は一過性に終わらず、継続的な地域力の向上へとつながります。空きテナント活用や新しい観光ルート創出も含め、観光・防災・交流を組み合わせた新たなまちづくりモデルとしての効果が見込まれます。</p>
<p>その他 特記事項</p> <p>(今回応募した動機・熱意、本事業を通して何を得たいか 等)</p>	<p>能登半島地震の被害を受けた方々やボランティア活動をしている方々と、金沢駅前の居酒屋HALFTIMEで直接言葉を交わし、「自分たちにもできることがあるのでは」と感じたのが本事業の出発点です。能登の商店や生産者が再び生業を取り戻すには、継続的な販路や発信の場が必要であり、それを金沢の地で実現したいという強い想いから応募しました。この事業を通じて、地域の人々と能登の方々、そして学生や観光客がつながり、互いに支え合う温かい関係性を築きたいと考えています。復興支援は一時的なものではなく、日常の中で自然と続いていく形が理想です。そのために、金沢での新たな観光・交流・文化体験の仕組みをつくり上げ、将来的には他地域にも展開できる持続可能なモデルとして育てたいと考えています。</p>